

Asia Indicators

発表日：2025 年2月7日(金)

オーストラリア・輸出は底入れする展開が続く(Asia Weekly(2/1～2/7))

～韓国・インフレ率は生活必需品の物価上昇やウォン安が重なり5ヶ月ぶりに中銀目標を上回る～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
2/1(土)	(韓国)1月輸出(前年比)	▲10.3%	▲13.5%	+6.6%
	1月輸入(前年比)	▲6.4%	▲9.9%	+3.3%
2/3(月)	(インドネシア)1月消費者物価(前年比)	+0.76%	+1.88%	+1.57%
	(香港)12月小売売上高(前年比・数量ベース)	▲11.5%	--	▲8.4%
	10-12月実質GDP(前年比・速報値)	+2.4%	+2.3%	+1.9%
2/5(水)	(ニュージーランド)10-12月失業率(季調済)	5.1%	5.1%	4.8%
	(韓国)1月消費者物価(前年比)	+2.2%	+2.0%	+1.9%
	(フィリピン)1月消費者物価(前年比)	+2.9%	+2.7%	+2.9%
	(インドネシア)10-12月実質GDP(前年比)	+5.02%	+4.98%	+4.95%
	(シンガポール)12月小売売上高(前年比)	▲2.9%	--	▲0.5%
2/6(木)	(タイ)1月消費者物価(前年比)	+1.32%	+1.30%	+1.23%
	(オーストラリア)12月輸出(前月比・季調済)	+5.9%	--	+1.4%
	12月輸入(前月比・季調済)	+1.1%	--	+4.2%
2/7(金)	(マレーシア)12月鉱工業生産(前年比)	+4.6%	+4.9%	+3.6%
	(インド)金融政策委員会(政策金利)	6.25%	6.25%	6.50%

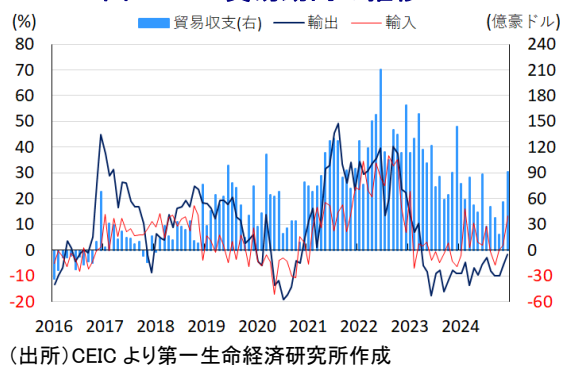
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[オーストラリア]～中国景気の底入れの動きも追い風に、鉱物資源関連や食品関連を中心に輸出は底入れ～

6日に発表された12月の輸出額(季節調整値)は前月比+5.9%となり、前月(同+1.4%)から3ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れの動きを強めている様子がうかがえる。財別では、主力の輸出財である鉱物資源関連の輸出は旺盛な推移をみせているほか、食肉や果物をはじめとする食料品関連の輸出も堅調さを維持するとともに、化学製品関連や機械製品関連なども底堅いなど、幅広い分野で輸出が底打ちの動きを強めている。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国向けは景気底入れの動きも追い風に押し上げられるとともに、日本向けや米国向けのほか、ASEANをはじめとするアジア新興国向けも堅調な動きをみせている。一方の輸入額も前月比+1.1%と前月(同+4.2%)から3ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど輸出同様に底入れの動きを強めている。財別では、機械製品関連の輸入は力強さを欠くほか、化学製品関連の輸入も勢いを欠く動きをみせる一方、鉱物資源関連の輸入は大きく底入れしているほか、食料品関連の輸入が

堅調な推移をみせていることも輸入全体を下支えしている。結果、貿易収支は+90.99 億豪ドルと前月（+56.26 億豪ドル）から黒字幅が拡大している。

図1 AU 貿易動向の推移



[韓国]～生活必需品の物価上昇に加えてウォン安進行も重なり、インフレ率は5ヶ月ぶりに中銀目標を上回る～

1日に発表された1月の輸出額は前年同月比▲10.3%となり、前月（同+6.6%）から16ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じた。今年は春節の時期が前年より大きく前倒しされており、営業日数が少ないことを考慮する必要があるものの、当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせるとともに、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている様子が見え始める。財別では、輸出をけん引してきた半導体で底入れの動きに一服感が出ているほか、自動車や自動車部品関連の輸出は下振れするなど幅広い分野で勢いを欠く動きがみられる。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国向けが下振れしているほか、米国向けも関税政策を巡る不透明感が重石となる形で鈍化するなど、全般的に低迷している様子が見え始める。一方の輸入額は前年同月比▲6.4%となり、前月（同+3.3%）から2ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比も3ヶ月連続で減少するとともに、中期的な基調も減少傾向で推移するなど輸出同様に頭打ちの動きを強めている。輸出の頭打ちを受けて素材、部材などに対する需要に下押し圧力が掛かるとともに、商品市況の調整の動きも輸入額の重石になっている。結果、貿易収支は▲18.87 億ドルと前月（+64.92 億ドル）から20ヶ月ぶりの赤字に転じている。

5日に発表された1月の消費者物価は前年同月比+2.2%となり、前月（同+1.9%）から加速して5ヶ月ぶりに中銀が定めるインフレ目標（2%）を上回る伸びとなっている。前月比も+0.70%と前月（同+0.45%）から上昇ペースが加速しており、ガソリンをはじめとするエネルギー価格が上昇しているほか、寒波の襲来など異常気象を理由に生鮮品や穀物をはじめとする食料品価格が上昇の動きを強めるなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まっていることが影響している。また、食料品やエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.94%と中銀目標をわずかに下回るも、前月（同+1.82%）から伸びが加速している。前月比も+0.49%と前月（同+0.13%）から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の上昇を反映して輸送コストに押し上げ圧力が掛かる動きがみられるほか、国際金融市場における通貨ウォン安の進展に伴う輸入物価の押し上げも重なり、幅広く財価格が上昇しているほか、そうした動きを反映して一部のサービス物価にも上昇圧力が掛かっていることが影響している。

図2 KR 貿易動向の推移

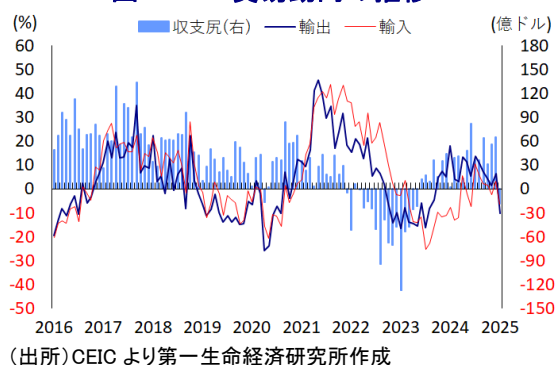
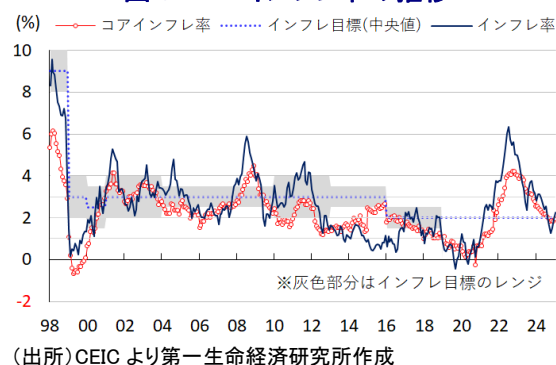


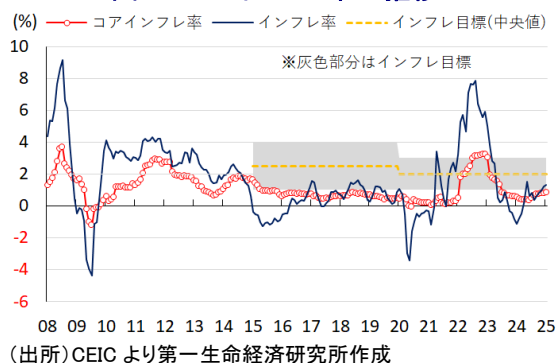
図3 KR インフレ率の推移



[タイ]～生活必需品で物価上昇の動きの一方、財、サービスの両面で幅広くインフレは落ち着いた動きが続く～

6日に発表された1月の消費者物価は前年同月比+1.32%となり、前月（同+1.23%）から加速して8ヶ月ぶりの伸びとなるも、引き続き中銀が定めるインフレ目標（2±1%）の範囲内で推移している。前月比も+0.10%と前月（同▲0.18%）から5ヶ月ぶりの上昇に転じており、生鮮品を中心とする食料品価格が上昇しているほか、エネルギー価格も上昇するなど生活必需品を中心にインフレ圧力が強まる動きがみられる。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+0.83%となり、前月（同+0.79%）から伸びが加速しているものの、引き続きインフレ目標の下限を下回る推移が続いている。前月比も+0.06%と前月（同+0.05%）からわずかに上昇ペースが加速しており、国際金融市場におけるバツ安に伴い輸入物価に押し上げ圧力が掛かる一方、輸送コストに下押し圧力が掛かっていることを反映して幅広く財価格は落ち着いた推移をみせているものの、サービス物価は緩やかに上昇するなど物価の動きはまちまちの様相をみせている。

図4 TH インフレ率の推移

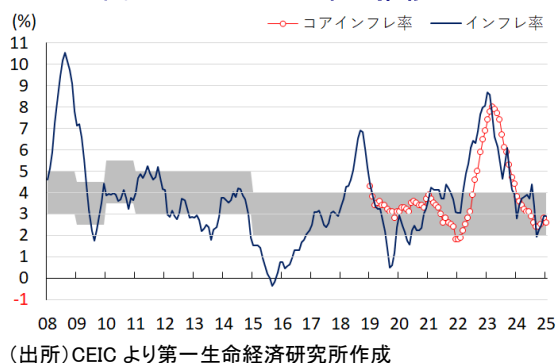


[フィリピン]～食料インフレ圧力はくすぶるものの、幅広く財、サービス物価ともに落ち着いた推移をみせている～

5日に発表された1月の消費者物価は前年同月比+2.9%となり、前月（同+2.9%）と同じ伸びになるとともに、中銀の定めるインフレ目標（2～4%）の範囲内で推移している。前月比も+0.55%と前月（同+0.55%）と同じペースで上昇しており、エネルギー価格は落ち着いた推移をみせる一方、生鮮品を中心とする食料品価格は上昇の動きを強めるなど、生活必需品を中心にインフレ圧力がくすぶる状況が続いている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+2.6%となり、前月（同+2.8%）から鈍化するとともに、インフレ率とともに中銀目標の域内で推移している。前月比も+

0.24%と前月（同+0.32%）から上昇ペースは鈍化しており、国際金融市場における通貨ペソ安は輸入物価を押し上げる一方、エネルギー価格の落ち着きを受けて輸送コストに下押し圧力が掛かるなかで幅広く財価格は落ち着いた動きをみせているほか、サービス物価の上昇ペースも鈍化するなど、緩やかにインフレ圧力が後退している様子がうかがえる。

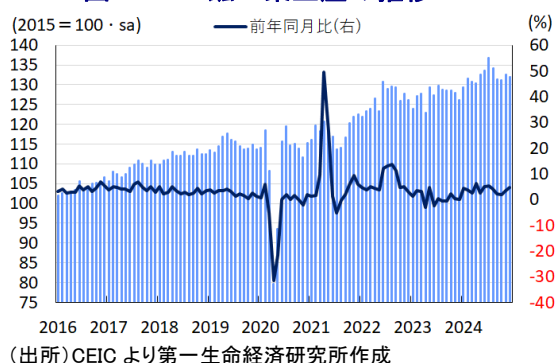
図5 PH インフレ率の推移



[マレーシア]～天然ガスなど鉱業部門は堅調な一方、製造業の生産は頭打ちするなど一進一退の動きが続く～

7日に発表された12月の鉱工業生産は前年同月比+4.6%となり、前月（同+3.6%）から伸びが加速している。なお、前月比は▲0.48%と前月（同+1.04%）から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせるとともに、勢いを欠く推移が続いている。分野別では、天然ガスをはじめとする鉱業部門の生産は旺盛な推移をみせる一方、前月に拡大した製造業の生産は再び減少に転じており、なかでも自動車など輸送用機械関連の生産は弱含むとともに、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連や電気機械関連の生産も一進一退の動きをみせている。また、経済活動の動向に連動する傾向がある発電量も減少に転じるなど、景気そのものも一進一退の動きをみせている様子がうかがえる。

図6 MY 鉱工業生産の推移

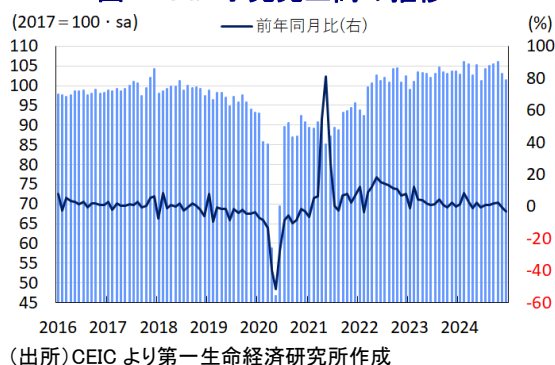


[シンガポール]～自動車需要に底打ち感も、雇用を取り巻く環境悪化に伴い幅広く需要に下押し圧力が掛かる～

5日に発表された12月の小売売上高は前年同月比▲2.9%と2ヶ月連続で前年を下回る伸びとなるとともに、前月（同▲0.5%）からマイナス幅は拡大している。前月比も▲1.49%と前月（同▲2.84%）から2ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。同国では月ごとの自動車販売が上下に振れるとともに、小売売上全体の動向を左右する傾向があるなか、当月は前月比+13.25%と前月（同▲7.74%）から3ヶ月ぶりの拡大に転じるなど底打ちする動きをみ

せている。しかし、自動車を除いたベースでは前月比▲3.52%と前月（同▲2.13%）から2ヶ月連続で減少するなど頭打ちの動きを強めており、財別では食料品など生活必需品に対する需要は底堅いものの、宝飾品などの高額品や娯楽需要も下振れするとともに、日用品など幅広い分野で需要が弱含む動きがみられるなど、雇用を取り巻く環境が厳しさを増していることが需要の足かせとなっている。

図7 SG 小売売上高の推移

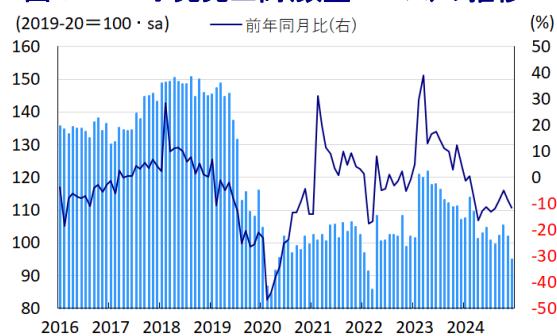


【香港】～中国本土の景気底入れを受けて香港景気も底打ちするも、その実態は数字に比べて極めて厳しい～

3日に発表された12月の小売売上高（数量ベース）は前年同月比▲11.5%と10ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移するとともに、前月（同▲8.4%）からマイナス幅も拡大している。前月比も▲6.96%と前月（同▲3.23%）から2ヶ月連続で減少している上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。財別では、食料品やエネルギーなど生活必需品に対する需要は底堅く推移しているほか、宝飾品など一部の高額商品に対する需要も堅調な動きをみせる一方、電化製品をはじめとする耐久消費財のほか、日用品などに対する需要は軒並み下振れしており、雇用を取り巻く環境が厳しさを増すなかで家計部門が財布の紐を固くしている様子が見えてくる。

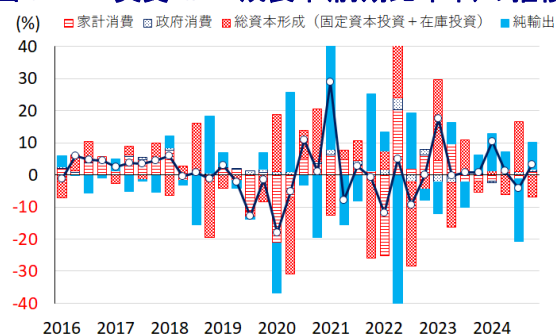
また、同日に公表された10-12月の実質GDP成長率（速報値）は前年同期比+2.4%となり、前期（同+1.9%）から伸びが加速している。前期比年率ベースの成長率も+3.24%と前期（同▲4.19%）から2四半期ぶりのプラス成長に転じており、頭打ちの動きが続いた流れに変化の兆しが見えてくる。中国本土景気が底入れの動きを強めたことに加え、米中摩擦の激化を懸念した駆け込みの動きも重なる形で財輸出が拡大に転じたほか、中国本土に買い物に出かける動きが活発化していることを反映してサービス輸出が拡大の動きを強めるなど輸出が景気を押し上げる動きがみられる。他方、公共投資の進捗などを反映して政府消費は堅調な動きをみせる一方、香港内における消費意欲の弱さが家計消費の足かせとなっているほか、米中摩擦の激化を警戒した企業部門の設備投資意欲の弱さは固定資本投資を下押しするなど、内需は民間需要を中心に力強さを欠く推移が続く。結果、輸入は財輸入を中心に下押し圧力が掛かり、純輸出（輸出－輸入）の成長率寄与度は前期比年率ベースで+8.48ptに達していると試算されるなど、景気の実態は数字に比べて力強さを欠くと捉えられる。また、2024年通年の経済成長率は+2.5%と前年（+3.2%）から伸びが鈍化している。

図 8 HK 小売売上高(数量ベース)の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図 9 HK 実質 GDP 成長率(前期比年率)の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

